

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年4月3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890400039		
法人名	医療法人 仁寿会		
事業所名	レーベンス古河 仁寿苑	ユニット名	—
所在地	〒306-0221 茨城県古河市駒羽根834		
自己評価作成日	平成24年9月5日	評価結果 市町村受理日	平成25年3月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_021_kani=true&JigyosyoCd=0890400039-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年11月27日	評価確定日	平成25年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者の皆様の望む暮らしの実現に向けて、法人の持つ医療支援機能という大きなメリットを活かしながら、より安心して信頼の得られる地域拠点となることを目指しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は隣接している運営母体の医療機関や通所リハビリテーションと協力体制を整え、連携を図りながら利用者の支援にあたっている。 職員は利用者一人ひとりを尊重するとともに、利用者の状況に応じて利用者の思いにそった在宅生活が継続できるよう取り組んでいる。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングにおいて、理念を唱和するとともに、共有すべき情報を提示している。	「医療・介護のサービスを通じて、住み慣れた地域の中で安心して、その人らしく生活出来るよう支援いたします」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げるとともに、職員は朝のミーティング時に唱和して共有を図り、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各種ボランティアを受け入れている。また、年2回の町内清掃に、休日ボランティアとして職員が参加している。	区長のアドバイスを受けて年2回町内会の清掃活動に参加している。 各種ボランティアを受け入れているほか、利用者はボランティアと一緒に地域の祭りや行事に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談のある際は、応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各月1回開催、登録状況や運営状況を報告するとともに、より地域住民との交流を図る上でのご意見を賜り、事業計画に反映させていただいている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、区長、民生委員、老人クラブ会長、ボランティアの代表、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では運営状況報告をしているほか、市職員からは市内の介護保険利用状況や、市が描いている高齢化に対する計画についての報告などを行っている。 委員から地域行事の情報を得て利用者の外出支援に取り入れるなど、会議で出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員として、介護保険課長に参加いただくことで、必要な情報提供や助言指導を仰いでいる。	管理者は市が実施する福祉介護と医療関係者との連携会議に出席し、情報交換をしている。 運営推進会議に市担当者が出席し、その中で意見交換や相談などをして助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	茨城県安全・安心介護サービス向上検討委員会「身体拘束のない介護のための指針」に準じている。	身体拘束のない介護のための指針を掲示するとともに、管理者は身体拘束をしないケアを研修計画に組み入れて内部研修を実施し、職員に身体拘束の内容と弊害を周知している。 職員は言葉遣いや声のトーンに注意をして虐待防止に努めるとともに、身体拘束をしないケアを実践している。 玄関は施錠しておらず自由に出入りができるほか、利用者が外出しそうな場合は職員が付き添っている。 身体拘束をしないケアのリスクや事業所の工夫について家族等に説明し、同意を得るまでには至っていない。	契約時、利用者や家族等に身体拘束をしないケアのリスクや事業所の工夫を説明し、同意を得ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員採用時の研修において学習の機会を設けているとともに、関係通知のある際は周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員採用時の研修において学習の機会を設けているとともに、関係通知のある際は周知に努めている。現在のところ、該当される利用者なし。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、必ず契約書、並びに重要事項説明書を基に十分理解が求められるよう説明を行っている。また、介護保険法改正による報酬費の変更等がある際は、家族会の開催や通知によりご理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、相談に応じるとともに、連絡ノートを活用している。利用者、並びにご家族を対象としたアンケート調査を適宜実施、サービスの質の向上に努めている。	職員は利用者からは通いのサービス利用時に意見や要望を聴いているほか、家族等からは連絡ノートを活用して利用者の様子を報告し、送迎時に意見等を聴くように努めている。 利用者や家族等から出た意見等は経過記録に記入し、管理者や全職員で共有するとともに、出た意見等を外出や外食支援に取り入れるなど、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人主催、事業所主催の各種会議を開催している。	月1回業務終了後に職員会議を開催して職員から意見等を聞く時間を設けるとともに、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体として、年1回、管理者、職員の自己評価機会が設けられている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修、並びに法人主催の各種研修機会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	古河さしま地域ケアマネージャー研究会に所属しているとともに、古河市介護保険課主催の各種研修会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に十分に主訴聴取するよう努めているとともに、利用の初期段階ではなるべく意図的な会話の機会を設けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に十分に主訴聴取するよう努めている。必要に際しては、訪問等による面談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に十分主訴を聴取するよう努め、事業所内外のサービスを調整し提供している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事準備（飾り作り等）は、利用者、職員が共同して行っている。出来ることは、多少時間が掛かっても自ら行っていただけるよう促している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所は在宅生活の延長である認識から、必要な援助は家族にも協力いただけるよう蜜に連絡をとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との絆が途切れないよう、家族の心身の負担軽減も考慮している。	現在通いの利用者が殆どであるが、馴染みの店に買い物に行ったり、理容室に行ったり、医療機関を受診する時などに職員が付き添い、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席次の工夫や、共同で行える諸活動の機会を多く設けることで、良好な交流関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等により、契約解除となった際にも病室訪問や、医療相談員を通じて状況把握に努めるとともに、適宜家族と面談を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の機会を多く持つよう心掛け、相互に譲歩しながら本人の望む暮らしの支援が行えるよう努めている。	利用者の多くは自分の思いを言葉で語るができるが、連絡ノートや送迎時に聴いた家族等の意見や要望を基に、利用者の思いや意向を把握して希望にそった支援に努めている。 思いを表出できない利用者の場合は、言葉や表情から思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時にサービス開始に係る必要な情報収集を行う。利用の初期段階では、極力本人との意図的な会話を行い、更なる情報収集を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から聞き取りを行っているとともに、必要に際しては、個別訪問することで在宅での生活状態を観察することもある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活記録に生活状況や気づきを記録し、サービス計画に反映している。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望を聴くとともに、かかりつけ医の意見を参考に職員会議で話し合い、介護支援専門員が作成している。 モニタリングを毎月実施するとともに、利用者の心身の状態によって随時介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録に生活状況や気づきを記録し、サービス計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別的な視点を常に重視し、限定主義的支援に陥らないよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の高齢者福祉サービス、民間の配食サービス等、インフォーマルサービスを活用することで在宅生活の支障に対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設する医療機関以外にも、歯科診療が受けられるよう支援している。	利用者が近隣にある運営母体の医療機関を受診する場合は職員が付き添い、医師が記入した利用者の状態や指示書を家族等に見せながら結果を報告している。 入院する場合は市が発行している「入退院時連携ノート」を活用し、利用者の状態を記入して入院先の医療機関に伝えているほか、退院時は看護サマリーを貰い、介護計画の作成に役立てている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に心身状態の変化の把握に努め、看護スタッフ、或いは直接主治医に意見を求めることで適宜診療が受けられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員への書面による入院時情報提供を行うと共に、入院中においても、病室訪問や家族との面談を行っている。また、退院時には書面による退院時情報提供を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向と、主治医の助言を基に、事業所変更も勘案しながら協議している。	事業所では終末期の対応は行わないことを原則としている。 2年前に利用者や家族等に実施した重度化や終末期に関するアンケートでは、事業所での看取りの希望は無く、その後アンケートは実施していないが事業所では利用者が重度化し、在宅生活や事業所での支援が困難となった場合は、家族等と話し合って意向を確認して医療機関や他施設につなげることをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置等の研修機会に参加するとともに、事業所に設置するAEDの活用について適宜使用方法の再確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、緊急連絡網訓練を計画実施している。	年1回消防署立会いのもと、法人全体の総合訓練を実施して民生委員が参加しているが、利用者や近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 総合訓練のほか、通報訓練を年2回、セキュリティ検査を年1回実施している。 避難訓練の実施記録を作成するとともに、今後の対策について話し合っている。 近隣にある運営母体の医療機関が飲料水や非常食などを備蓄している。 食堂からベランダへの出入り口に物が置かれ、塞がれている状態となっている。	事業所独自の避難訓練を近隣住民の協力を得ながら、利用者とともに実施することが望まれる。 避難口となる食堂からベランダへの出入り口には、出入りを妨げるような物は置かないよう改善が望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や、かかわりの中で気づいた利用者の心持等、ミーティング等を通じて全職員が共有することで配慮した関わりに心掛けている。	職員は守秘義務や個人情報保護について、研修や職員会議を通して理解している。 職員は利用者の個別性や人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉遣いや対応に努めている。 利用者の個人情報に関する書類等は、事務所の鍵のかかる書棚で管理している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	提案を自ら発せられるような雰囲気作りに心掛けている。	/		/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	提案を自ら発せられるような雰囲気作りに心掛けている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は自由としている。希望により理美容店への外出支援を行っているとともに、定期的に訪問理美容ボランティアを受け入れている。	/		/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	適宜、主食やおやつ等、職員と共同して調理を行う機会を設けている。	献立は運営母体である医療機関の栄養士が作成している。 利用者の状態に合わせ粥や刻み食を提供しているほか、糖尿病や腎臓病に配慮した食事を提供している。 利用者はできる範囲でテーブル拭きや食器の後片付けを職員と一緒にやっている。 食事が楽しめるよう外食を取り入れ、利用者の馴染みの店に出かけて好みの物が食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や管理栄養士の指導を基に、利用者の身体や嚥下状態、嗜好等に応じ、食形態の工夫や自助具、嚥下困難食（トロミアップ、ソフト食）、代替食等を提供させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者の分の歯磨きセットを当方で用意することで、毎食後の歯磨き励行を促している。治療が必要である際には、家族にかかりつけ歯科医への受診協力を求める。協力が得難い状況においては、訪問歯科診療の機会を提供している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意に鈍りが出てきているも、便座に便意がとれる限り、リハビリパンツや尿取りパットを併用することで、トイレでの排泄を促している。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレ誘導や声かけをしている。 排泄チェック表はあるが記入するまでには至っていない。	健康管理のためにも利用者の排泄状況や水分摂取量を記録し、トイレ誘導に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	制限されていない限り、水分は十分に摂っていただいている。日課やレクリエーションの中に多くの運動を盛り込んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の日課や気分によって、時間帯は調整している。	入浴は個浴で週3回支援するとともに、入浴ができない場合はシャワー浴で対応をしている。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、清拭で対応をしている。 利用者が抵抗感無く入浴ができるよう、入浴介助は同性の職員が対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転等の阻害要因とならない範囲において行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効用、服薬時、服薬量ともに把握しており、定時、随時に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、園芸等、経験知識を披露していただける機会を設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	理美容や外食・ショッピング等の機会を設けている。	職員は利用者の行きたい場所を聞き、要望にそって買い物や食事、花見などに付き添ったり、近隣にある同一法人の通所リハビリテーションに通っている知人を訪問できるように支援している。 年間の外出計画を立て、ボランティアの協力を得て花見や敬老会などに出かけられるよう支援しており、利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食やショッピング等の機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	諸活動の中に書面を書く機会を多く盛り込むことで、コミュニケーション能力の低迷を予防するよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓、吹き抜けを設けることで採光を良くするとともに、手狭ながらも開放的な空間を演出している。	居間兼食堂は陽の光が入るよう天窓を設置しているほか、椅子を置いたベランダとガラス戸でつながっており、一体感のある空間となっている。 居間兼食堂に利用者が制作した季節感のある貼り絵や書道の作品などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室は、いつでも休養できるようベッド寝具ともに自由に開放している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフラット化しており、目的に応じてベッドや可動式畳を配置できるようにしている。	長期滞在の利用者は少ないが、宿泊時には家族等がラジオを持参し、夜間でも寂しくないよう対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線上に手摺を設置することで、極力自立を促せるよう配慮している。車椅子での移動を容易にする為に、玄関、アプローチ、ウッドデッキにスロープを施している。アンケート調査により、利用者、ご家族の意見を参考とした改修も行っている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 レーベンス古河 仁寿苑

作成日 平成 25年 3月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	現在、徘徊防止の為に施錠や転倒防止の為に拘束は行っておらず、事故発生のリスクは大きい状況にある。	利用者、家族に身体拘束をしないケアのリスクや、事業所の工夫を事前に説明を行う。	重要事項説明書に左記目標を明記し、契約前に同意確認を行う。	2ヶ月
2	35	近隣住民との共同による避難訓練が未実施となっている。避難口の障害物撤去が不十分である。	近隣住民との共同避難訓練の実施。避難口の障害物撤去の徹底。	今後とも継続して、運営推進委員の助言を仰ぎ、また、地元消防団への集会場として開放しながら関係作りの強化を図り、具体的実施に向けていきたい。また、避難口については、毎日点検実施し、障害物の撤去を行う。	6ヶ月
3	43	排泄、水分摂取量の管理については、記録として不十分な状況にある。	排泄、水分摂取管理の徹底を行う。	排泄、水分摂取については、回数管理のみではなく、量の管理を行うようにする。また、記録様式の改善を図る。	1ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。